

『一粒の種』

幸せそうな奴を見つけて、後ろから大きな石を落とした。

硬く握られた拳をこじ開け、たった一粒の種を見つけた。

誰にも知られぬ様に種を植え、やがて実る果実の夢を見た。

やがて小さな双葉が顔を出し、それを覗き込もうと頭を下げた。

―誰かが後ろから石を落とした。

額が双葉を簡単に潰し、儂い緑は赤色に消えた。

思わず握った拳も開かれる。

そこには知らぬ間に、小さな種が一粒あった。

そしてそのまま世界は消えた。

種はいつまでも実ることなく、渴いた大地で生まれては消えた…。